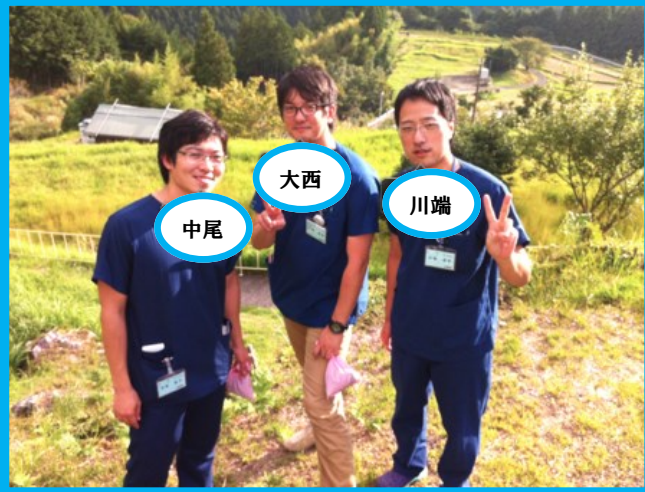


紀南病院 研修医通信 第39号

2013年10月号（平成25年10月29日発行）



市立堺病院 研修医2年 川端 修平

わずか1ヶ月の間ですが、非常にお世話になりました。ありがとうございます。あっという間の1ヶ月間で、あと2ヶ月でも3ヶ月でも居たいというのが正直な感想です。

さて、紀南病院では数多くのことを勉強させていただきました。脳卒中から肺炎など診療科関係なく様々な症例を経験させていただき、またカンファレンスではしっかりと議論を重ね、他の先生の症例もしっかりと勉強できました。将来的には脳外科に進む予定であり、最後の内科研修としては非常に有意義なものとなりました。将来的な内科的なマネジメントに役立つと思います。

また、他の先生方の専門家を持ちつつ、ジェネラルの診療をする姿勢も非常に勉強になりました。地域医療では、マンパワーの問題があるため内科というジェネラルな診療が求められている中で、同時に専門的な医療が求められるという非常に難しい環境だと実感しました。そんな中でもしっかりと専門家の勉強を進める熱心な姿勢を見させていただき、自分も負けていけないなと思いました。今後の勉強姿勢に関しても勉強させていただきました。

イロイロと述べましたが、簡単にいうと非常に楽しく研修させていただき、めっちゃ感謝しています。また、出会った時は声をかけて下さい。見つけたら声をかけます！！（川端）

病院関係者の皆様、本当にお世話になりました！

早いもので御浜町での生活も1ヶ月が経過してしまいました。10月の台風一過の秋晴れの下、御浜町の穏やかな海を眺めているとしんみりしてしまいます。それにしても実に美しい海ですね～。さみしいです。

こちらでの研修の評判は先輩方より伺っておりまして、新しい環境の下、地域中核病院で急性期から慢性期と在宅医療を勉強させて頂きたく希望致しました。

大学病院では当直の経験がほとんどなく救外の現場では先生方やスタッフの皆様に御迷惑をお掛けする場面が多かったかと思いますが、親切かつ寛大に指導して下さいまして大変お世話になりました！当初はそんな自身の経験不足と無知さを恥じていましたが、専門研修が始まる前にこうした“軌道修正”は非常に為になったと思います。今では当初と比べたらあの無意味な緊張感は和らいで対応出来る姿勢が備わった気がします。

こちらでの研修では地域医療においてgeneral medicine・primary careの意義が非常に大きい事を痛感しました。大学病院は殆どの症例が市中病院からの紹介で専門の篩い分けが既に済まされている場合が多く、治療終了後は基本紹介先へ戻すため退院後個人の生活プラン(ADLの考慮、施設入所や介護保険の申請etc.)の調節や社会復帰を長く見守る機会が少なかったためこちらでの診療は大変印象的でした。“地域医療研修”という名目で研修させていただきましたが、今後は人材の多い都市部でも超高齢化が進む環境で地域医療≒日本の将来の医療の縮図に近いものがある気がし、自身に直に関わる問題としてもっと危機感を持たなくてはいけないと感じております。そして、先生方がマンパワーが少ない環境下で内科全般を対応しつつ専門的な症例も各自の専門の意見を終結して日々診療に臨んでいらっしゃる姿を拝見して自身ももっと真摯な姿勢で勉強しなければいけないと痛感しきりです！

一ヶ月と限られた時間の中で意義のある研修をさせて頂いて感謝しております。誠にありがとうございました。

(遠藤)



東京大学医学部附属病院 研修医2年 遠藤 圭織